

ハウステンボス（HTB、長崎県佐世保市）は移動式水上ホテルの開発に乗り出した。直径6・5メートルの巨大な球体に1室ずつ宿泊施設を入れ、2015年に購入した大村湾の無人島までHTBから船で運ぶ。実物大の球体を試作し、海に浮かべることに成功した。HTBと無人島を結ぶ船もすでに購入しており、17年から

移動式水上ホテル開発へ

移動式水上ホテルの建設を本格化する。な施設を整備するかは検討中だ。

長島（西海市）と呼ばれる無人島はHTBの南西約6キロ、船で15〜20分程度のところにある。面積は約4万平方メートル。近く簡易的な港を建設し、発電設備も整備する。島全体にどのような（沢田秀雄社長）とい

無人島へ船で運搬

う趣向だ。海に浮かぶコテージをイメージする水上ホテルは1室あたり35平方メートルの広さを確保。室内から海中を眺めることができるようにする。

HTBは15年夏にロボットがフロント業務をこなす変なホテルを開業した。「移動式水上ホテルは世界初のホテルの第2弾」としている。